

上久下地域づくり計画書

“太古のロマンと未来に夢広がるかみくげの郷”



平成28年3月

上久下地域自治協議会

I. 地域づくり計画策定委員会経過

1、計画策定委員会組織立上げまでの経過

(1)平成27年11月11日にふるさと振興会の主導で、ふるさとの未来を語る会を開催して地域づくり計画に関する意見を聴取。

メンバーは自治会公民館主事、体育部長男女、体育振興会理事、消防団役員、PTA役員、地域有識者などの若手中心。

(2)地域づくり計画策定委員会を、自治会長会、ふるさと振興会、恐竜の里づくり部会、老社会、愛育班、体育振興会、小学校PTA、民生委員、ボランティアの各代表に委嘱して発足させた。行政からは地域づくり推進係長やまちづくり指導員のご指導をいただいた。

2、地域づくり計画策定委員会

第1回 平成27年12月10日(木)

19:30～21:30

- ・正副委員長の選出
- ・平成23年度作成の上久下地域まちづくり計画の検討
- ・ふるさとの未来を語る会の意見内容検討
- ・上久下地域づくり10年計画の課題・具体策検討
- ・今後の日程について協議

平成27年12月22日(火)

13:00～16:00

- ・作業部会で課題解決のテーマを検討

平成28年1月12日(火)

13:00～16:00

- ・作業部会で課題解決のテーマを検討

第2回 平成28年1月15日(金)

19:30～21:30

- ・各自治会催し一覧表や地域人口予想などの資料説明
- ・作業部会で検討した3項目の課題解決テーマを説明
- ・テーマ別にグループ分けして、目標設定と実施計画のグループ討議
- ・今後の日程について協議

平成28年2月3日(水)

19:30～21:30

- ・グループリーダー会議で目標内容の調整

第3回 平成28年2月10日(木)

19:30～21:30

- ・グループリーダー会議での目標調整内容説明
- ・テーマ別グループで目標に沿った実施計画の討議
- ・各グループまとめ発表と意見交換
- ・今後の日程について協議

平成28年2月22～23日

9:00～16:00

- ・作業部会で地域づくり計画(素案)の作成

第4回 平成28年3月9日(水)

19:30～21:30

- ・地域づくり計画(素案)の加筆修正について
- ・地域づくり計画の周知方法について協議
- ・今後計画を実行するための方法について協議

Ⅱ. 上久下地域の将来は

2040年、今から25年先の丹波市の人口は67,000人から52,000人弱に減少する。この減少幅は22%である。上久下地域の2015年総人口は1,480人で、2040年には1,160人まで減少すると予想されている。減少幅は市全体と同じく22%となる。

この時、上久下地域の様子はどうなっているのだろうか？何も対策を講じなければ、高齢化率は40%を超えて空家率も30%を有に超えていることになる。農地は後継者不足の為ほとんどの田畑が耕作放棄地となって、今日まで維持されてきた美しい田園風景は根底から崩れてしまう。集落としての機能も果たせず、いわゆる限界集落に陥ってしまうことは明らかである。

現在の社会情勢から、どんなに対策を講じても人口の減少は止められないと思う。しかし人口が減少しても人々の目が常に輝いているまちづくりは可能である。それが元気で豊かな地方創生である。今を生きる私たちが20年先、30年先を見据えながら知恵を出し行動していくことが大切である。

Ⅲ. 地域の課題解決に向けて(キャッチフレーズと活動テーマ)

若者の都市への流出、少子高齢化により地域内での世代構成の均衡が崩れ、地域活動の主体となる担い手が不足してきた。このことにより集落機能の低下、地域にたいする誇りの希薄化など地域力の低下に繋がっていると思われる。これらを克服するため次の通り、キャッチフレーズと3項目の活動テーマを設定する。

上久下地域のキャッチフレーズ

「太古のロマンと未来に夢広がるかみくげの郷」

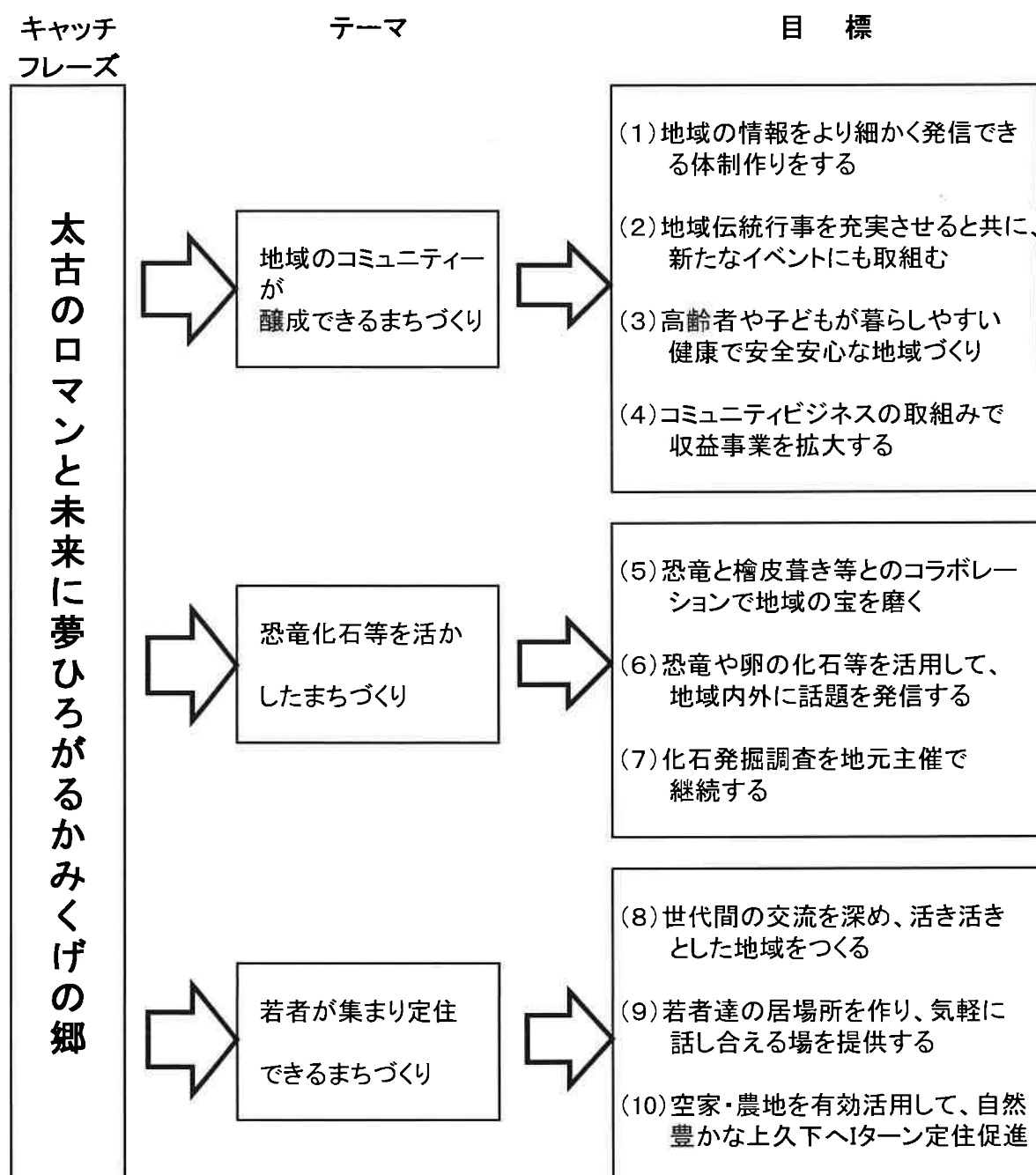
課題解決の活動テーマ

- ①地域のコミュニティが醸成できるまちづくり
- ②恐竜化石等を活かしたまちづくり
- ③若者が集まり定住できるまちづくり

IV. 地域づくりの目標

恐竜化石を中心とした地域の宝を活かした取組みにより、地域の「良さ・魅力」を内外に発信し、訪れるひとの満足度を高め、リピーターの定着と交流人口の増加により、地域の活力に繋げていく。また、高齢者のいきいきとした活動、子ども達のひびく歓声、健康づくりに励む人々、伝統文化を継承してきた人々など地域の様々なパワーを結集して「かみくげの郷」づくりに取り組んでいくことが必要となる。

今回の目標設定に当たっては、経験豊富な人の意見を取り入れながら、若い人たちの提案に関しては“やってみなはれ”の考え方で組み込んで、10の目標を設定した。



V. 目標実行に対して期待される効果

①地域のコミュニティが醸成できるまちづくり

- (1)地域の情報をより細かく発信できる体制作りをする
 - ⇒ 情報発信部を作りホームページを充実させることで、タイムリーな情報を内外に発信できる。
- (2)地域伝統行事を充実させると共に、新たなイベントにも取り組む
 - ⇒ クリスマスイブー発花火の打ち上げや、各集落入口にイルミネーションを設置することで地域住民の連帯感が生まれる。
 - ⇒ 桜まつり、体育祭、文化祭など伝統行事を充実させることで参加者を増やす。
 - ⇒ 各地区の伝統行事を記録・保存することで、伝統文化を継承していく。
- (3)高齢者や子どもが暮らしやすい、健康で安全安心な地域づくり
 - ⇒ 健康づくり教室を充実させることで、アクティブシニアの増加を図る。
 - ⇒ 防犯カメラを設置することで、安心して生活できる地域にする。
- (4)コミュニティビジネスの取り組みで収益事業を拡大する
 - ⇒ 地域特産品を活かした6次産業化に取り組むことで、地域の賑いを創りだす。
 - ⇒ 収益事業を拡大して、交付金だけに頼らない地域づくりを目指す。

②恐竜化石等を活かしたまちづくり

- (5)恐竜と檜皮葺き等とのコラボレーションで地域の宝を磨く
 - ⇒ 元気村に檜皮葺きの体験コーナーを設け、夏休みに専門家を派遣してもらう。
 - 化石発見10周年記念イベントも開催し、地域の宝を活かして集客UPを図る。
- (6)恐竜や卵の化石等を活用して、地域内外に話題を発信する
 - ⇒ 恐竜検定を実施することで、話題を発信して来訪者を増やす。
 - ⇒ 卵の巣をイメージした菓子を開発し、話題作りや食品開発グループの活性化が図れる。
- (7)化石発掘調査を地元主催で継続する
 - ⇒ 化石発掘調査を継続的に実施することで、話題を内外に発信できる。

③若者が集まり定住できるまちづくり

- (8)世代間の交流を深め、生き活きとした地域をつくる
 - ⇒ 小学校児童が地域学習することで、より地域への愛着が生まれる。
 - ⇒ 椎茸作りとカブト虫や鈴虫などの繁殖・販売に取り組むことで、世代間の交流を図るとともに、収益事業化が目指せる。
- (9)若者達の居場所を作り、気軽に話し合える場を提供する。
 - ⇒ 交流の場を作ることで、若者達が気軽に集まれるようになり連帯感が生まれる。
- (10)空家・農地を有効活用して、自然豊かな上久下へIターン定住促進
 - ⇒ Iターン者との意見交換会を開催したり、トライアル居住の方法を検討していくことで、定住促進を図っていく。

VI. 目標実行、平成28年度からの取組み

地域づくり計画実行委員会では、具体的な目標実施計画(5W2H)まで踏み込んで検討した。しかし、平成28年度から10年の間、計画を継続実行するとなると800万円の予算では到底まかなえるものではないことも分かってきた。国や県の地方創生と一億総活躍に関する補助事業を積極的に取り入れ、年度毎に新たな計画を組込んで事業を拡大していくことも必要である。年度総会や理事会に諮りながら、PDCAサイクルをしっかりと回して、地域にとって効果のある実施計画にしていきたい。

計画を実行する際には、計画策定委員長から実行項目ごとに責任者を任命し、四半期ごとの報告を要請する方式を取る。

地域づくり計画策定委員会名簿

所 属	名 前	役 職	
自治協議会	柳川瀬 義輝	自治協議会顧問	
	村上 茂	自治協議会会長	
自治会長会	永井 良和	自治会長会会長、下滝自治会長	
	野垣 克己	自治会長会副会長、太田自治会長	委員長
	齋藤 幸一	青田自治会長	
	永井 幸一	阿草総代	
	永井 正	上滝自治会長	
	村上 孝三	篠場自治会長	
	柳川瀬 正夫	畑内自治会長	
	竹内 新二	北太田自治会長、商工会上久下地区長	
恐竜の里づくり部会	常岡 芳朗	恐竜の里づくり部会会長、事務局	副委員長
	前田 節子	恐竜の里づくり部会副会長	
ふるさと振興会	村上 英明	ふるさと振興会会長	
	土田 正博	ふるさと振興会副会長	
	原田 清美	ふるさと振興会副会長	
老壮会	中西 一郎	老壮会会長	
愛育班	永井 多英子	愛育班代表	
体育振興会	前田 剛	体育振興会会長	
小学校PTA	友井 辰哉	PTA会長	
民生委員	石田 美子	民生委員上久下地区代表	
ボランティア	柳川瀬 愛子	上久下ボランティア代表	

アドバイザー

所 属	名 前	役 職	
行政職員	大嶋 学	地域づくり推進係長	
	畑田 久佑	まちづくり指導員	